

新型コロナウイルスへの人々の対策行動（続）¹

石井健一（文教大学 情報学部・情報社会学科）²

キーワード：新型コロナウイルス、対策行動、リスク、感染、一般人の意識、アンケート調査

要約 本報告は、2月の報告書（石井2020）の続報として、筆者が2020年4月11・12日に実施されたアンケート調査について、とくに人々の新型コロナウイルスへの対策行動に焦点をあてて概要を報告するものである。この調査は、2月に筆者が実施したオンライン調査の第二回パネル調査にあたるものである。2回の調査結果を比較したところ、「電車やバスに乗らない」「友だちに会わないようにする」が大幅に増加しており、対人接触が確かに減っていることが示唆されている。ただし、厚生省の提唱する「接触80%減少」という目標に到達しているかどうかは不明である。アンケートの結果からは、在宅勤務のさらなる推進と店舗での対人接触の抑制の効果が相対的に大きそうであることがわかった。

背景と研究目的

2020年3月になって緊急事態宣言が出されるなど、さらに状況は悪化している。感染を減らすため、特に対人接触を減らすことが政府から提唱されている。こうした状況において、人々の対策行動、特に対人接触の抑制の実態とその要因を探るために、2月に続いてパネル調査を実施することにした。本研究の本来の研究目的は、新型コロナウイルスへの認知や対策行動へのメディアの効果を見ることであるが、この点については別の機会に報告をする予定である。

研究方法

前回の調査と同様に株式会社アイブリッジのアンケートシステム freeasy を利用してオンラインモニター800人に回答を求めた。このうち調査期間に設定した二日間において回答したのは626名（回答率78.3%）であった。内訳は、4月11日（土曜日）の回答者が560名（89.5%）、12日（日曜日）の回答者が66名（10.5%）となっている。今回の調査の回答者の属性についてみると、男性が50.8%、平均年齢50.6歳（標準偏差16.9）となっている。本稿では、これらの項目のうち、特に新型コロナウイルスへの対策行動に関係する質問に関する結果のみを報告することにする。

¹ 2020年4月15日 http://open.shonan.bunkyo.ac.jp/~k_ishii/SARSCoV2_2.pdf

² 連絡先 [ishiiken\[at\]bunkyo.ac.jp](mailto:ishiiken[at]bunkyo.ac.jp) 本調査は2020年度文教大学情報学部個人研究経費によって実施された。

結果

人々のとっている対策行動—2月からの変化

人々の対策行動は、2月下旬からどのように変化したのであろうか。パネル調査で比較可能な626名について2月と4月の比較を行った(表1)。

比較可能な項目は、いずれも行動をとる比率が上昇している。特に上昇率が高いのが「電車やバスに乗らない」(18%→42%)、「友だちに会わないようにする」(5%→36%)である。対人接触を減らそうという政府の呼びかけが、全体レベルでは浸透していることを示している。ただし、「在宅勤務をする」は11%であり、表1からも37%の人が職場で少なくとも一人以上の人と接触していることから、4月11日時点ではあまりテレワークなどで対人接触を減らすことは行われていないとみられる。

表1 対策行動をとった比率(% N=626)

	2月	4月
マスクを買う	46	-
消毒液を買う	29	-
飲料水や食べ物をいつもより多めに買う	8	18
いつも行く店舗には行かずに、インターネットで注文する	6	10
人の多いところには行かないようにする	43	65
電車やバスに乗らない	18	42
友だちと会わないようにする	5	36
睡眠を十分にとるようにする	30	42
手をよく洗う	59	69
外出するとき、マスクをする	42	60
在宅勤務（テレワークなど）をする	-	11
食事会などの会合をやめる	-	45

対人接触はどの程度、減少しているのか？

現在、新型コロナウイルスの流行を抑制するため人と人との接触をなるべく減らすことが推奨されている。新聞報道などによると、加藤厚生労働大臣は「感染爆発を防ぐために人との接触を7-8割減らすことが必要である」と述べている（“「人との接触7割～8割削減に協力を」厚労相”，2020年4月17日）。

そこで、今回の調査では一日に接触する人数について新たに加えてみた。図1および表2は、「きのう一日（朝起きてから夜寝るまで）のことについて、おたずねします。あなたは、昨日に、どのくらいの人に実際に会いましたか？ここで

「会う」は「同じ場所において、あいさつや話をする」こととし、子どもや知らない人も人数に含めてください。(ビデオ会議やネットでの会話は含みません)。以下の場合について教えてください。」という質問をして、「同居している家族」「同居していない家族・親戚」「勤務先の職場の人」「友人・知人」「近所の人」「学校などの知り合い」「お店の人(スーパーやレストランの店員)」「銀行・郵便局などの従業員」「宅配便の従業員」「その他の人」の各々について人数を聞いたものである。なお、ほとんどの回答者が4月11日(土曜日)に回答しているので、多くの回答は金曜日の状況について答えたことになる。また、「対人接触」を会話をしたことのある相手に限定しているのは、物理的距離で接触を定義すると(たとえば「2メートル以内にあった人」)、回答者が正確に答えることは困難であると考えられたからである。

あまり多くの人数については、回答者が正確な人数は答えられないと予想したので「6人以上」のカテゴリーで答えてもらった。表2の右の欄にある「合計人数」は各カテゴリーに対して0, 1, 2.5, 4.5, 6を割り当てて合計の接触人数を計算したものである。「6人以上」を6としているので、実際の人数はこの数字を上回っているものと予想され、この値は最も保守的に計算した低めの人数と考えてもらいたい。

表2をみると、「勤務先の職場の人」において6人以上の回答比率が最も高く、ついで「お店の人」が多いことがわかる。この中で「お店の人」との接触が「6人以上」と答えた人が626人中54人もいることが注目される。これがどのような店舗なのか、具体的な状況は分からないが、店舗での対人接触が依然としてかなりの比率を占めていることが示唆されている。さらに人との接触を削減するのであれば、職場を含めて店舗での接触を減らすことが必要になると思われる。

まとめ

2月との比較からみると、対人接触を減らすということは、ある程度は達成されており、確かに対人接触の頻度は減少していると思われる。ただし、これが政府の提唱する80%減少という目標に到達しているかどうかは分からない。もし、対人接触をさらに減少させる必要があるのであれば、在宅勤務のさらなる推進と店舗での接触の減少を進めていく必要があるであろう。

参考文献

石井健一(2020)新型コロナウイルスへの人々の対策行動—アンケート調査結果から、http://open.shonan.bunkyo.ac.jp/~k_ishii/SARSCoV2.pdf

“「人との接触7割～8割削減に協力を」厚労相”, NHK ニュース(特設サイト新型コロナウイルス)、2020年4月17日

<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/tokyo/>

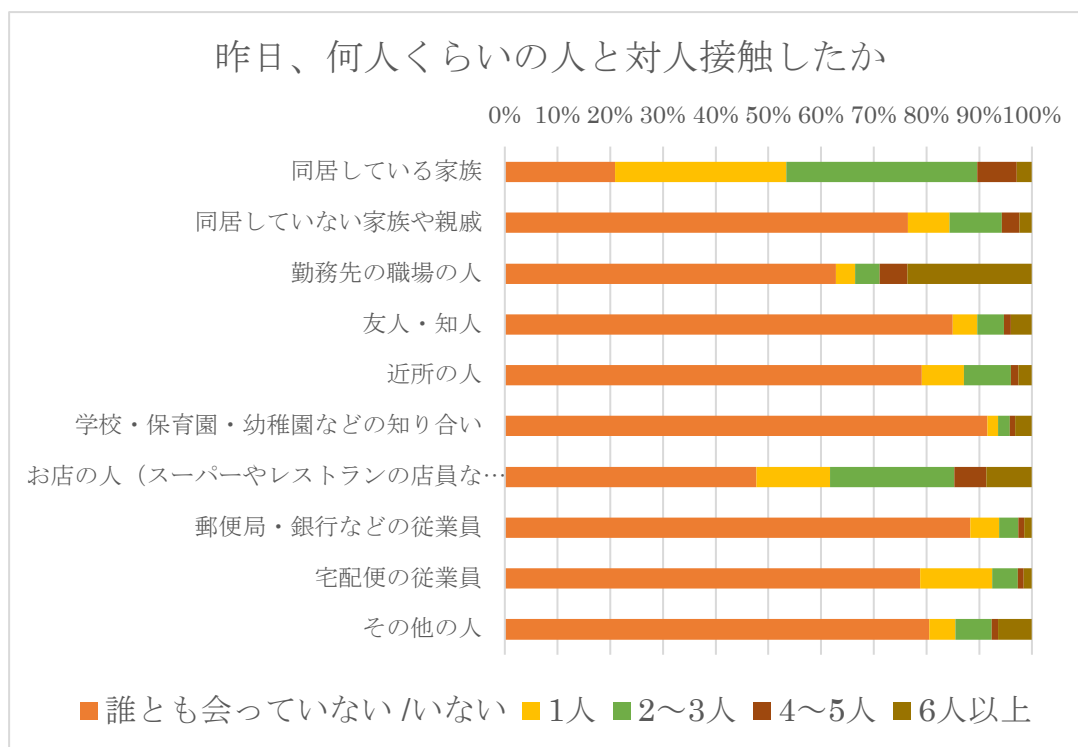


図1 昨日、何人くらいの人と接触したか (N=626)

表2 カテゴリーごとの接触した人数(前日)

	誰とも会っていない / いない	1人	2~3人	4~5人	6人以上	合計人数
同居している家族	131	203	227	47	18	1090
同居していない家族や親戚	479	49	62	21	15	388.5
勤務先の職場の人	393	23	29	33	148	1132
友人・知人	532	29	32	8	25	295
近所の人	495	50	56	9	16	326.5
学校・保育園・幼稚園などの知り合い	573	13	14	6	20	195
お店の人(スーパーやレストランの店員など)	299	87	148	38	54	952
郵便局・銀行などの従業員	553	34	23	7	9	177
宅配便の従業員	493	86	30	7	10	252.5
その他の人	504	31	43	8	40	414.5
延べ合計	4452	605	664	184	355	5223